２０２４年度（令和６度）協働のまちづくり推進事業報告書

常石ともにまちづくり推進委員会	委員長　梶原　祐爾

（問合せ先）　０８４－９８７－３８３９（常石交流館）

事業内容

（１）「育む」安心・安全①　防災啓発　防災倉庫点検（５月１２日　３箇所）
合同避難訓練（１１月２９日）　３３７人

（２）「育む」安心・安全②　交通・防火意識啓発（年７回）実施　登下校見守り活動（課業日）
おでかけ支援事業（買物支援週４日他）

（３）「培う」繋がり①　合同夏まつり　（７月２７日）常石ともに学園　約５００人
二十歳を祝う会（８月１０日）常石ともに学園　３５人
つねいし交流広場（１０月２０日）　常石ともに学園　約８００人

（４）「培う」繋がり②　絵手紙交流 敬老対象者　２６０人　児童　１５９人

（５）「引き継ぐ」技と知識　大人のクラブ活動＆子どもチャレンジ講座開設　２２回　延べ９８人
トライウォーク・まちづくり研修等の世代間交流　未実施

（６）「果たす」みんな一役①　環境美化活動（４月～３月）　地域内一円
地域内一斉古紙回収（リサイクル）（４月～３月）延べ約２１０人
地域内春季一斉清掃（５月１２日）２９３人

（７）「果たす」みんな一役②　まちづくり広報活動（年１２回　Ａ３両面　発行総数　８，４００部）

（８）「図る」地域連携による活性化①　沼隈町駅伝大会（１月１９日）沼隈運動場 運営スタッフ ５９人

（９）「図る」地域連携により活性化②　人・まち・ふくしマルシェ２０２４
（１１月１０日）沼隈支所　（想青学園と同日開催）　約５，０００人

(10)「支える」委員会活動　推進委員会運営事業
（年１１回 委員会１７９人　年１１回 例会２６９人）

成　果

学区のない「常石ともに学園」を地域の学校として支えるため、新たなコミュニティの場としてスタートした「つねいし交流広場」は、地元の野球チームが積極的に参加するなど、地域と学校が一体となった参加型のイベントとして広がりを見せている。地域文化の一つとして、みんなで育んでいきたい。

また、避難訓練やまつりの開催などで、各種団体が自分たちのノウハウを生かし、積極的にかかわってもらえる取り組みができた。

課　題

少子高齢化・担い手不足などの大きな課題があるなかで、これらの芽を大事に育て、次世代にうまくつながるように取り組んでいきたい。

課題解決にむけて

少子高齢化・担い手不足などの大きな課題があるなかで、これらの息吹を大事に育て、次世代にうまくつながるように取り組んでいくことが、今後のまちづくりのキーポイントとなる。

培い育む「確かな繋がり」

新たな地域文化へ・・・

福山市との合併20年、地域のコミュニティは、コロナ禍・学校再編による小学校閉校・校区のない「常石ともに学園」の開校等により、大きな岐路に立たされた。少子高齢化によるまちづくりの担い手不足と相まって、新たなコミュニティの醸成は困難さを伴った。ゆっくりとした歩みであったが、みんな(各種団体)のノウハウを集めて「交流広場」を創りだした。

今回で3回目の開催となるが、前年の反省を基に毎回コンセプトを設定して、「一人ひとりが主役」となるよう企画した。

今年は、地域と児童に加えて、地元スポーツクラブの野球チームや中学生のボランティアなどの若い世代も参加。フィナーレは、20周年記念で制作した「うちわ」の波が、会場いっぱいに広がっていた。

パン食い競争のお手伝い

来場者の受付

フィナーレは、地域の定番「常石よいとこ」

ボランティアもスタッフに